

昭和三五(1960)年
洲二小六年六組

思出
卒業文集
復刻版



右は、一九六〇年（昭和三五年）に、六年六組のクラスメイトが綴った「若芽」という卒業文集の表紙です。

当時の原版は、すでに六十年を経過していますので、茶色に変色しています。右のは、表題「若芽」に合わせて、新緑の色にアレンジしています。

六組の中から、十二名の編集委員がクラスメイトそれぞれの原稿を、当時の印刷の主流であった、ロウ引き原紙に鉄筆で書き込み、クラスのみんなでこのガリ版刷りの文集をつくりました。

その文集の中から、旧友たちの作品をここに転載しました。

しかしながら、令和二年十月十五日の、ホームページの開設・公開までに、クラスメイト全員の作品を全部デジタル化できませんでした。ご容赦ください。これから全員の作品を掲載するよう努めてまいりますので、いましばらくお待ちください。

六十年前の、文集作成時点ですでに、みなさんの作品の原稿からガリ版刷りへの転記ミスがあった、と思います。ここには、当時の文集通りを忠実にそのまま転載しましたので、ご本人の不本意となっている箇所があるかもしれません。また、ガリ版刷りの印刷が不鮮明なために、判読できず、空白のところも各所にあります。不明か所は、「????」で示しています。

当時のガリ版刷りの中で、印刷が今なお鮮明なのは、その画像を作品の横に貼り付けています。

二〇二〇年（令和二年）十月十五日

「洲二小六年六組の仲間たち」ホームページ作成・編集係

先生

雨瀬正憲

一年生におそわった、先生に、久々に年賀状を出した。

まもなく先生より年賀状が届いた。ランドセルを背おった幼い時を思い出した。お母さんのような感じをする先生。なつかしいはがきを見ると片すみに、

「今年から中学校ですね。がんばって下さいよ」とやさしいペンのあと、ぼくは先生の、お顔をおもい出して思わず目がしらがあつくなった。先生って、あり

がたいものだなあ……

六年前のぼくをわすれずに……

先生、どうもありがとう。お元気で、ぼくも元気で小学校を卒業します。

思い出集

「先生」

雨瀬 正憲

一年生におそわった、先生に、久々に年賀状を出した。

まもなく先生より年賀状が届いた。ランドセルを背おった幼い時を思い出した。お母さんのような感じのする先生。なつかしいはがきを見ると片すみに、
「今年から中学校ですね。がんばって下さいよ」とやさしいペンのあと、ぼくは先生の、お顔をおもい出して思わず目がしらがあつくなった。先生って、ありがたいものだなあ……
六年前のぼくをわすれずに……
先生、どうもありがとう。お元気で、ぼくも元気で小学校を卒業します。

ひと口さようなら

雨瀬正憲

六年間の

さようなら

???? 笑の力になつてくれて有がとう

時々、ラクガキをしてごめんね

僕は電気技師になりたい
僕は電気の事が大好きです。

???? 作ったり米つきをつくったりしまし
た。???? の??? の本でラジオの
ので僕はさっそくラジオを作ってみた。
ハンダが付きにくくて困ったが苦心の末やっ
と出来上がった。

一口さようなら
校門 教室 講堂 さようなら
岡田福夫

希望
僕は将来 警察官になりたいと思っている。そ
して悪い人をとらえるのだ。

一口さようなら
校門 教室 講堂 さようなら
岡田福夫
僕は将来 警察官になりたいと思っている。そ
して悪い人をとらえるのだ。

六年間

岩井宣孝

あゝ卒業だ！ 六年間やり通して来た小学校生活がおそろうとしているのだ。又目の前に来ているのだ。学級の友だちがちりぢりばらになる。それを思うとなんと胸がひきしまります。けれども学級みんなのことは いつまでも頭の中に残ることだろう。六年間わらいと勉強で通したのです。ぼくにも希望があるのだ。その希望と努力にかちすめばなにも苦勞はないと思う。ぼくは小学校の勉強をさんこうに中学校の勉強に希望をもっています。

六年間

岩井 宣孝

あゝ卒業だ！ 六年間やり通して来た小学校生活がおそろうとしているのだ。又目の前に来ているのだ。学級の友だちがちりぢりばらになる。それを思うとなんと胸がひきしまります。けれども学級みんなのことは いつまでも頭の中に残ることだろう。六年間わらいと勉強で通したのです。ぼくにも希望があるのだ。その希望と努力にかちすめばなにも苦勞はないと思う。ぼくは小学校の勉強をさんこうに中学校の勉強に希望をもっています。

一口さようなら

河野 左千夫

もう一度行きたい修学旅行。

一口さようなら
もう一度行きたい修学旅行。
河野 左千夫

ゆめ

菅 昭夫

まだ何になりたいかわからない。

ゆめ

菅 昭夫

まだ何になりたいかわからない。

コネコ

大瀬育夫

家にまっくらな子ネコがる。

僕は、クロと名をつけた。

ごはんを食べずにミルクばかりをのむクロ、
だから毛がツヤツヤしている。

冬はストーブのそばばかり、夜はねまへぞろりとは
いり、毎日げんきそうであらやましい。

僕も時々ねこになりたいと思う。

コネコ

大瀬 育夫

家にまっくらな子ネコがいる。

僕は、クロと名をつけた。

ごはんを食べずにミルクばかりのうをクロ、
だから毛がツヤツヤしている。

冬はストーブのそばばかり、夜はねまへぞろりとは
いり、毎日元気そうであらやましい。
僕も時々ねこになりたいと思う。

ひと口さようなら

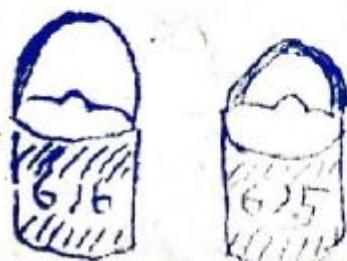
大瀬育夫

給食のおばさん、長い間、いろいろありがとうございました。

一口さようなら

大瀬 育夫

給食のおばさん、長い間、いろいろありがとうございました。



三年生の秋の思い出 岡田福夫

三年生の十月の初めごろ、思いがけなくいなかの姉さんが来られた。ぼくがでて見るとむつかし

用件をいったのでわからなから母をよんだ。

すると「福夫いなかへいつてきて」といわれたので、

「なんでいくの」ときくと「紙にかいとくからこれわたしたらわかる」といった。ぼくはいそいでお金をも

らってえきにいった。バスにのると、五十分ほど

していなかについた。つくといちもくさんに走っ

ていった。家につくと、おばさんはいなく鳥が「コ

ッコ、コッ」と鳴いていた。しばらくさがしてもい

ないので家で一時間ほどまっていたら、おばさん

が来て紙を見て何か母にもってかえるものをもら

った。いそいでかえりかけるとみぞへ、はまって

家にもってかえる品物をおとしてしまった。その

付近をさがしてもみあたらないのでこまっしてしま

った。その時つまりてころげおちた足もとを、

みるとおちていた。よろこんではしってかえった

三年生の秋の思い出

岡田 福夫

三年生の10月の初めごろ、思いがけなくいなかの姉さんが来られた。ぼくがでて見るとむつかし

用件をいったのでわからなから母をよんだ。

すると「福夫いなかへいつてきて」といわれたので、

「なんでいくの」ときくと「紙にかいとくからこれわた

したらわかる」といった。ぼくはいそいでお金をも

らってえきにいった。バスにのると、五十分ほど

していなかについた。つくといちもくさんに走っ

ていった。家につくと、おばさんはいなく鳥が「コ

ッコ、コッ」と鳴いていた。しばらくさがしてもい

ないので家で一時間ほどまっていたら、おばさん

が来て紙を見て何か母にもってかえるものをもら

った。いそいでかえりかけるとみぞへ、はまって

家にもってかえる品物をおとしてしまった。その

付近をさがしてもみあたらないのでこまっしてしま

った。その時つまりてころげおちた足もとを、

みるとおちていた。よろこんではしってかえった

ぼくの家

奥村治

ぼくの家は、山の下にある。家は小さいが庭はとても広い。庭のすみには池がある。いつも学校からかえると、ほとんど外にでてこの池で船をうかべたりふなをつったりして遊ぶ。友達がよくやってきたけれども、ふゆになるとこの池一面に 氷がはるので魚取りもできないといってスケートのできるほど厚くはない。だから氷のあるうちはこの池ではちっとも遊べない。二月の中ごろぼくが風をひいてねていると、お母さんが「うぐいすがないたよ」いった耳をすますとかすかにうぐいすの声がかきこえる。まだ梅もさかないのに、それに毎日寒い北風もふいているのにもう春がきたのかなと思った。ぼくは、風のひいたのもわすれて、ろうかにでてみた。山は北風でザワザワいており池のまわりにはひきつめた氷がキラキラと光っている。ほんとに寒いようだ。けれどこのうぐいすの声をきいてから春がきたという感じといっしょに心の中まであたたかくなったように思った。ぼくは着物をきかえると庭げたをつつけて池のほとりえいってみた。池の中をのぞいてみるとめだかが二匹石のこかげにくっついていた。ぼくは手を入れてそつと取りに行くためだかはあわてて底にもぐった。水はおもったより温いがぼくのせすじがぞーっとした。これは風のせいかもしれないとまた家の中にひきかえした。おかあさんが「床にはいっていなさいよ」とおっしゃった。

一口さようなら

奥村 治

先生、長い間ありがとうございます。

やがて恩がえしができる日をたのしみに

これからも一生けんめい勉強します。

先生、ありがとうございます。

一口さようなら 奥村 治
先生、長い間ありがとうございます。
やがて恩がえしができる日をたのしみに、
これからも一生けんめい勉強します。
先生、ありがとうございます。

ほくの家は、山の下にある。家は小さいが庭はと
ても広い。庭のすどには池がある。いつも学校のうか
える。ほとんどの外にでてこの池で船をうかべたり
泳ぐ。つたりして遊ぶ。友達がよくやつてきたけ
れども、小ゆに居るとこの池一面に。泳ぐはるの
で魚取りもできないといつてスケートかできるほ
うくはない。だから泳ぐあさうさ。この池ではさう
とも遊ばない。二月の春さうさ。お星さひりての
ていると、おきこんおきこんすかいたまといつた
耳をすますとかいふかにういすのまきさこえる。ま
は梅もさかはいかに、それは毎日。お星もふり
ているかにもう春さきたのかお星もふり。た。ふふは
民のひいたのもわすれてさうかにてみた。山は北
風でザワザワいっており池のまわりにはひきつめた
氷がキラキラと光っている。ほんとに寒いようだ。
けれどこのうぐすの春さきつてから春さきとい
う感じといつては心に中まであたたかくはつたよ
うに見える。ほくは着物をさかえると庭げたをつつ
かけて池のほとりえいつてみた。池の中をのぞいて
みるとめだかが二匹石のこかげにくつついていた。
ほくは舟を入れてそつと取りに行くとめだかはあわ
てて底にもぐった。水はおもったより冷いがほくの
せすじがずーっとした。これは風りせいかもしれないま
いとまの家の中へひきかえした。おかあさんが床に
はいつていた。おきこわっしやった。



二年生の思い出 亀井是之

今からちょうど五年前 僕は中川原小学校から転校して来た。転入した時、いちばんおどろいたのは生徒がたくさんいたことです。ぼくは二年六組になつて先生は出海先生でした。学校でつらかつたことは前の学校とこの学校とぜんぜん勉強がちがうこと。この学校ははじめてなので、だれも友だちのいなかったことです。でも一ヵ月ほどすると北谷君と奥村君の二人の友達ができほんとうにうれしく思いました。ぼくがこの組になつてから一番最初にめだったのは由尾君でした。又僕は二年生の時よく宿題をわすれていつて先生にしかられたことは一生忘れないでしょう。こうして五年間よく遊びよく遊んできたみなさんとお別れせねばならないことはなごりおしくてなりません。

二年生の思い出

亀井是之

今からちょうど五年前 僕は中川原小学校から転校して来た。転入した時、いちばんおどろいたのは生徒がたくさんいたことです。ぼくは二年六組になつて先生は出海先生でした。学校でつらかつたことは前の学校とこの学校とぜんぜん勉強がちがうこと。この学校ははじめてなので、だれも友だちのいなかったことです。でも一ヵ月ほどすると北谷君と奥村君の二人の友達ができほんとうにうれしく思いました。ぼくがこの組になつてから一番最初にめだったのは由尾君でした。又僕は二年生の時よく宿題をわすれていつて先生にしかられたことは一生忘れないでしょう。こうして五年間よく遊びよく遊んできたみなさんとお別れせねばならないことはなごりおしくてなりません。

ひと口さようなら

亀井是之

毎日むかえてくれ、おくつてくれた校門よさようなら。

一口さようなら

角村雅和

夏は水泳、冬はなわとび 短かった六年間

一年生の思い出 まいご 加藤 一之

僕が一年生の時 おじいちゃんと僕とで、お母さんの所へ遊びに行った。二日たつてお母さんが「動物園につれて行ってやろうか」といった。僕は「うん、つれて行って」と元氣よく返事した。お昼からお母さんと、僕と、おじいちゃんと三人で動物園へ遊びに行った。市内電車に乗って約二十分すると、車しようさんが「動物園前」と言ったら お母さんが「ここでおおりるんやで」とおっしゃった。僕たちはここでおりました。動物園へ、は入る時お金がいった。中へはいってみると動物がたくさんいた。象、キリン、ライオンカバ トラなどたくさんいた。さるを見ているとお母さんとおじいちゃんがなくなつた。何べんさがしてもいない。僕は泣きそうになつたそこへよそのおばさんがやって来て「ぼくどないしたん」といわれて大声で泣いた。するとお母さんとおじいちゃんとがやって来て「どこにおつたん」といわれてなきやんだ。ぼくは、もう動物園なんかもう行きたくないと思つた。

終

一年生の思い出

まいご

加藤 一之

僕が一年生の時 おじいちゃんと僕とで、お母さんの所へ遊びに行った。二日たつてお母さんが「動物園につれて行ってやろうか」といった。僕は「うん、つれて行って」と元氣よく返事した。お昼からお母さんと、僕と、おじいちゃんと三人で動物園へ遊びに行った。市内電車に乗って約二十分すると、車しようさんが「動物園前」と言ったら お母さんが「ここでおおりるやで」とおっしゃった。僕たちはここでおりました。動物園へ、は入る時お金がいった。中へはいってみると動物がたくさんいた。象、キリン、ライオンカバ トラなどたくさんいた。さるを見てはお母さんとおじいちゃんがなくなつた。何べんさがしてもいない。僕は泣きそうになつたそこへよそのおばさんがやって来て「ぼくどないしたん」といわれて大声で泣いた。するとお母さんとおじいちゃんとがやって来て「どこにお

つたん」といわれてなきやんだ。ぼくは、もう動物園なんかもう行きたくないと思つた。

終

六年間、みんなに可愛いがってもらい、楽しく、勉強に運動にはげむことができました。たのしい修学旅行いつまでもわすれることができます。中学へいっても、いっしょうけんめい勉強する、つもりです。

卒業文集

川上 修三

六年間、みんなに可愛いがってもらい、楽しく、勉強に運動にはげむことができました。たのしい修学旅行いつまでもわすれることができます。中学へいっても、いっしょうけんめい勉強する、つもりです。



卒業

北谷竹二

長かった六年間、もう一カ月で、六年生も終だ。もう一度 いきたい、修学旅行、もう一度したかった、野球大会も終わった。こよみの上ではもう春だ。

卒業

(北谷 竹二)

長かった六年間もう一ヶ月で、六年生も終だ。もう一度 いきたい、修学旅行、もう一度したかった、野球大会も終わった。こよみの上ではもう春だ。



ひと口さようなら

北谷竹二

よく遊ばさせて、くれた運動場よ、さようなら。

ゆめ

かしわ屋の、あとつぎになろうと思います。

一口さようなら 北谷竹二
よく遊ばさせて、くれた運動場よ、さようなら。
ゆめ、
かしわ屋の、あとつぎになろうと思います。

たきび

桑田修二

庭でお母さんが、たきびをしている、
おおきい火の子、小さい火の子、
まるで火の子が おどっているようだ、
にわかに風がふいてきた、きえそうになった、
なんだか火の子が、かわいそうに感じた。

たきび

桑田 修二

庭でお母さんが、たきびをしている、
おおきい火の子、小さい火の子、
まるで火の子がおどっているようだ、
にわかに風がふいてきた、きえそうになった、
なんだか火の子が、かわいそうに感じた。

カラス

桑田修二

夕やけ空に、カラスが一羽、風に流されながら
とんでいった。悲しい声でなきながら、やがて、
その影は、むらさき色の雲にきえた。
その夜、ほくは、ゆめで、
カラスがきつと、さびしい、僕の心に
ひっそり、まいおりてきて、つばさをたたんで、
やすんでいたのだろう。

カラス

桑田修二

夕やけ空に、カラスが一羽、風に流されながら
とんでいった。悲しい声でなきながら、やがて、
その影は、むらさき色の雲にきえた。その夜、ほくは、
ゆめで、カラスが、きつと、さびしい、僕の心に
ひっそり、まいおりてきて、つばさをたたんで、
やすんでいたのだろう。

あもうすぐ卒業だ 多田好孝

ふりかえってみれば、六年間は短かった。

一年生の四月、母に手をひかれて歩いてこの学校へきたのも、このあいだのようだ。

「一年ぼうずそのボールをとれ。」と六年生の子に言われた。その時、ぼくは、早く六年生になればいいのと思った。二年三年は、一年生と同じように過ぎてしまった。四年生の夏休みの時海へ水泳にいった沖の方へ行って、おぼれそうになつて、助けてもらったこともあった。五年生の三学期ぼくは、納へ家をかかわることにきまつた。

僕は、ほんとうにつらかった。近所の、おばさんや、友達と別れて納へ行くの、さびしくてしかたがなかったが、父母は、かわらなければ、ならないことがあった。僕はしかたなく、かわることを決心した。初めは、学校から、電車でかえると、遊ぶつれも、なくさびしかった。三月ぼくたちは六年生を送った。さみしい歌を、うたいながら。ぼくたちも、あのように、して、おくられるのかと思うと、淋しいかんじがしました。

あもうすぐ卒業だ。 多田 好孝

ふりかえってみれば、六年間は短かった。一年生の四月、母に手をひかれて歩いてこの学校へきたのも、このあいだのようだ。

一年ぼうずそのボールをとれ。と六年生の子に言われた。その時、ぼくは、早く六年生になればいいのと思った。二年三年は、一年生と同じように過ぎてしまった。四年生の夏休みの時海へ水泳にいった沖の方へ行って、おぼれそうになつて、助けてもらったこともあった。秋かきで虫を入れた箱をつくつたこともあった。五年生の三学期僕は、納へ家をかかわることにきまつた。僕は、ほんとうにつらかった。近所の、おばさんや、友達と別れて納へ行くのは、さびしくてしかたがなかったが、父母は、かわらなければ、ならないことがあった。僕はしかたなく、かわることを決心した。初めは、学校から、電車でかえると、遊ぶつれも、なくさびしかった。三月ぼくたちは六年生を送った。さみしい歌を、うたいながら。ぼくたちも、あのように、して、おくられるのかと思うと、淋しいかんじがしました。



登校の道

中村源太郎

いってまいりますと、元気いっぱいに出かける。
友達とけんかしながら、かよった道
きょうも おばさんが水まきをしている。
「ただいま」と、元気いっぱいに帰る
雨の日も、風の日も 通う道
今日も車が、ひっきりなしに、通っている。

登校の道

中村 源太郎

いってまいりますと、元気いっぱいに出かける。
友達とけんかしながら、かよった道
きょうも おばさんが水まきをしている。
ただいまと、元気いっぱいに帰る
雨の日も、風の日も 通う道
今日も車が、ひっきりなしに、通っている。



一口に云って僕の六年間はいたずらがすぎてあまり良くなかったと思う。ガラスを二、三枚わり数えきれないほど先生にしかられた。わったガラス三枚はいずれも老獪でボール投げをしていてわったのだ。今考えれば馬鹿らしい。なぜ廊下なんかでボール投げをしたのだろうか。しかしガラスを割った時には絶対にガラスなんか知らという自信があり又ええい やってしまえという気があったのだ。けれども投げるとすぐわってしまう。これがそのときの現状だ。いくらわらないという自信があってもひかえ目にするのがあたりまえだ。だがこんな考え方をするようになったのもものを考える力が進んだからだろう。四年生で一枚わったがその時はどのようにしかたはつきり覚えていない。五年生の時は岡田君とドッジボールの受けあいをしていてすりガラスを一枚わった。この時の先生のありがたさわ一生忘れないだろう。以上いたずらについてのべたが僕にはまだ性質という難問題がある。短気で何かちよつといやなこと、腹がたつことを云われたり、されたりすると何を云い出すか又何をやりだすかわからない。三、四年の時はよく先生に口ごたえたことがあった。しかしそれは何らかの理由があったからだ。決して僕が正しいというのではない。又先生が正しいというのでもない。僕が正しい時もあつただろう。又先生が正しい時もあつただろう。正しい時の方がよっぽど多いのだ。それを僕が自分の考えが正しいと思いこみ又それを守りぬこうという気が強かった。今自分で自分のことを反省してみると、なんと生意気なやつだろうと 自分で自分の事がつくづく恥ずかしく思う。そういう時はたとえ先生が悪くともがまんするのだ。それが忍耐というものだ。又僕にはしゃべりという欠点もある。しかししゃべりはもうほとんどなおった。それは六年生になるのにぺちやぺちやしゃべる男はみっともないと思つたから常日頃氣をつけていたからだ。欠点はこれだけではない。まだまだほかにたくさんある。又長所もある。しかし長所はのべるにおよばない。欠点は常に氣をつけていて注意をしていればなおるだろう。いや絶対になおる なおるのだ。

一口に云つて僅り六歩間はいかにすうがすうであ
まり良く打つたと思ふ。がラスミミ多枚わり
数えられたいほど先生にしかうなれ。わつたが
ラス多枚は出す小も厭下でボール投げミして
てわつたが。今考へ小は馬鹿らしい。たゞ厭
下の人からボール投げミしたのだから。しか
しがラスをわつた時には絶対にラスは入んか
わらないという自信があり又之をいやってしま
えという気があつたのだ。けれども投げるとすぐ
わつてしまふ。これがその時々の現狀だ。いくら
わつたという自信があつてもひかえ目にするやう
がぬかりよえだ。だからこんど考へよとするよ
うに打つたのもものを考へる力が進んだからだろ
う。四年生で一枚わつたがその時はどのような
したかはつきり覚えていない。五年生り時は岡
田君とドッジボールの受けあいをしていてす
がラス一枚わつた。この時は坂口先生がお金
払つて下さつた。この時先生りおりがたさ
一生懸命に打とう。火上りたすうにいつの
へにか僕にはまだ性質という難問がある。短
氣で何かあつたといふやうなことを。腹のたつこと
を云われぬ人。さ小なりすると何を云ひ出すか
又何もやりだすかわからぬ。三々四年の時
よく先生は口ごたえをしたことがあつた。しか
しそれは何うか理由があつたからだ。決して僕
が正しいというのではない。又先生が正しいと
いうのではない。僕が正しい時もあつたからう。

先生が正し、時をいふは大方の
し、時より方がよっぽど多いのだ。それと僕が自分
の考えが正しいと思ひこみ又それを守りぬこうと
いう気が強かつた。今自分で自分のことと友者し
てみると、ほんと生意氣なやつだろうと、自分で
自分の事がつくづくはすかしく思う。そういう時
には先生が悪くともがまんするのだ。それが
忍耐というものだ。又僕にはしゃべりという欠点
もある。しかししゃべりはもうほとんどおつた。
それは大學生になるのにはやべりやしゃべり
男はみつともないと思ひながら常日頑固をつけて
いながらだ。欠点はこれだけではない。まだまだ
ほかにもたくさんある。又長所もある。しかし長所
はのべるにおよばない。欠点は常に気をつけてい
て注意をしておけばなおるだろう。いや絶対にな
おるはおろかな。

六年生の夏休み

長谷川 恵

五年生の時友だちと海へおよぎにいったが、ぼくはあまりおよげないのでこまった。ぼくが六年生になってから、兄さんや友だちに、教えてもらって、今では、大きい方のとびこみ台にもいけるようになった。それからぼくは、友だちといっしょにせんじょうじきやどこでもいけるようになりました。それから、お父さんにも、勝そうな気になりそれで、ぼくは、お父さんと海へいって、しあいをした。だが始は、ぼくがかつていたからずんずん、おいぬかれていくので、ぼくもスピードをだしたが、とうとうぬかれてしまいました。それから、ぼくは、大人には、まだまだ、まけると思いました。

六年生の夏休み

長谷川 恵

五年生の時友だちと海へおよぎにいったが、ぼくはあまりおよげないのでこまった。ぼくが六年生になってから、兄さんや友だちに、教えてもらって、今では、大きい方のとびこみ台にもいけるようになった。それからぼくは、友だちといっしょにせんじょうじきやどこでもいけるようになりました。それから、お父さんにも、勝そうな気になりました。それで、ぼくは、お父さんと、海へいって、しあいをした。だが始は、ぼくがかつていたからずんずん、おいぬかれていくので、ぼくもスピードをだしたが、とうとうぬかれてしまいました。それから、ぼくは、大人には、まだまだ、まけると思いました。

ゆめ

長谷川 恵

ぼくは、大きくなったら、外国へ行って、したいと思う。それならば、これから、こつこつ??? していこう。

ゆめ

長谷川 恵

ぼくは、大きくなったら、外国へ行って、したいと思う。それならば、これから、こつこつ??? していこう。

思い出

堀 寿雄

六年間をふりかえって見ると
四月にお母さんにつれられて入学してから
もつはや卒業
たのしいことも、かなしいことも
ともにすごしてきた六年間
考えるとなんとなくかしくなった。

思い出

六年間をふりかえって見ると
四月にお母さんにつれられて入学してから
もつはや卒業
たのしいことも、かなしいことも
ともにすごしてきた六年間
考えるとなんとなくかしくなった。

堀 寿雄



みなさんありがとう

由尾 隆

みなさんにかわいがられて、六年生もすぎました。
。いよいよ、中学生になります。みなさんありがとう。
。これからもうっぱに育っていかうと思います。
楽しかった修学旅行は一生の思い出になること
でしょう。

みなさんありがとう

由尾 隆

みなさんにかわいがられて、六年生もすぎました。
。いよいよ、中学生になります。みなさんありがとう。
。これからもうっぱに育っていかうと思います。
楽しかった修学旅行は一生の思い出になること
でしょう。

一口さようなら

由尾 隆

先生ありがとうございました。いつか、きっと
???? 思います。

前途に希望を持って私は去って行く

夏休みの思い出

大岡小枝子

私は犬がこわい。

小学校最後の夏休みの　　は神戸のお婆さんの家でくらしが、あいにくお婆さんはかぜをひいていて　ごはんだき、そうじ、せんたく、などという主な仕事だけしてあとはんたり起きたりしていた。それで私も自分のできる用事は手伝いをした。

お婆さんは「小枝子　犬にごはんをやって」と言いました。私は犬はこわいしそれにお婆さんの家にいる犬はボクサーというブルドックよりも　いっている犬だからどうしようかと迷ったが思いきって犬のいる所へごはんを持って入りました。

すると犬は　おじさんやお婆さんが入っても何もしないのに私が入って行くと二匹ともよってきて足をペロペロなめるのです。私はびっくりして足をあげたひょうしに　げた　がぬげてしまいましました。すると大きい方の犬が自分たちの小屋へげたを入れてしまいました。私がとりにいこうとすると　犬が入口でがんばっているのとりにいけません。私は思いきってお婆さんをよぶとお婆さんは「こわがりやなあ」「パンでむこうへやっておくからその間にとっておいで」そういってばんをむこう

の方で犬にやっているまに私はげたをとりに行きやつと安心した。私は小さいころから犬がこわくて　おじさんはこわくないがいつも犬を散歩につれて行ったり　ごはんやっているおじさんを自然にこわいと思うようになり　おじさんにだかれるとすぐになきだしたんだそうです。

そして小学校と別れをつげなければなくなつた今でもやっぱり犬はあんまりすきではありません。

終

卒業

岡本愛子

お母さんに、連れられて一年生に入学したのもこのあいだのように、思いますが、はや六年もたつてしまった。初めての、遠足は大へんよろこんでおべんとうや、おかし、水筒などもって大よろこびでがっこうへくると男もののリックサックだといわれてそのままにげてかえって、お母さんをこまらせたことがあった。六年生の修学旅行には、おねえさんやお兄さんに、いろいろのものをかってもらつてうれしかった。朝早く起きて、汽船場へいった。それから、みんなと船にのつた。六年生の一ばんの思い出である。いよいよ六年生もおわりかと思うと急にいままでの学校がなつかしくなってきた。今日までこどものようであつたが、中学校になると、母は「こどもではないからしっかり勉強しなさい」という。

もうすぐ、そばには、春がよんでいる。もうすぐそばには、六年生から、中学校へいくのをよんでいる。

卒業

岡本愛子

お母さんに、連れられて一年生に入学したのもこのあいだのように、思いますが、はや六年もたつてしまった。初めての、遠足は大へんよろこんでおべんとうや、おかし、水筒などもって大よろこびで学校へくると男もののリックサックだといわれてそのままにげてかえって、お母さんをこまらせたことがあった。六年生の修学旅行には、おねえさんやお兄さんに、いろいろのものをかってもらつてうれしかった。朝早く起きて、汽船場へいった。それから、みんなと船にのつた。六年生の一ばんの思い出である。いよいよ六年生もおわりかと思うと急にいままでの学校がなつかしくなってきた。今日までこどものようであつたが、中学校になると、母は「こどもではないからしっかり勉強しなさい」という。

もうすぐ、そばには、春がよんでいる。もうすぐそばには、六年生から、中学校へいくのをよんでいる。

ゆめ 文具店

岡本愛子

私は、大きくなって、学校の前に文具店を、つくろうと思います。

文具店
私は、大きくなって、学校の前に文具店を、つくろうと思います。
つくえよ、さようなら
きみの上で、よくいたずらをしたね。

ひと口さようなら

岡本愛子

つくえよ、さようなら

きみの上で、よくいたずらをしたね。

勉強

金田てるよ

コツコツとえんぴつの音をたてて、いやいや宿題をしていたら、となりのおばちゃんがきて「てえちゃん よう勉強しよんなあ」といった。人から見たらよくしているように見えるが、自分ではいやいやしている。この調子でいくと高等学校はかく実にくってんころりんだが、がんばろう。

勉強

金田

コツコツとえんぴつの音をたてて、いやいや宿題をしていたら、となりのおばちゃんがきて「てえちゃん よう勉強しよんなあ」といった。人から見たらよくしているように見えるが、自分ではいやいやしている。この調子で行くと高等学校はかく実にくってんころりんだが、がんばろう。

一口さようなら

金田てるよ

緑園、芽立と、ともに立つ私は、うれしいけれど、かなしい。

思い出

草川秀美

ふりかえって見ると、六年間といえは、長いように思うけれど、今考えたら早いものです。

遠足で山へ登ったり、海へ行ったり、電車に乗って遠い所へも行きました。修学旅行は、一年生に入學してから毎日楽しみにしていた旅行も、とても楽しくおもしろくすみました。運動場で体育をしたり、泣いたり、わらったり、けんかもした。力いっぱい大きな声で、わめいたり、すきなように遊びました。あとわずかでこの運動場ともおわかれだ。一週間、二週間というあいだに卒業の日が来るのだ。先生と（この部分が判読できません）べない。そしてペンきようがむずかしい。いつもつくえの上にかじりつかなくては、みんなにおいていけないのだと思った。

思い出

草川 秀美

ふりかえって見ると、六年間といえは、長いように思うけれど、今考えたら早いものです。遠足で山へ登ったり、海へ行ったり、電車に乗って遠い所へも行きました。修学旅行は、一年生に入學してから毎日々々楽しみにしていた旅行も、とても楽しくおもしろくすみました。運動場で体育をしたり、泣いたり、わらったり、けんかもした。力いっぱい大きな声で、わめいたり、すきなように遊びました。あとわずかでこの運動場ともおわかれだ。一週間、二週間というあいだに卒業の日が来るのだ。先生と（この部分が判読できません）べない。そしてペンきようがむずかしい。いつもつくえの上にかじりつかなくては、みんなにおいていけないのだと思った。

私の夢 希望

草川秀美

私は、たくさんの夢をもっている。

大きくなって、洋服屋とか、美容師かスチュワーデスカ、女医になろうと思っています。だけど、スチュワーデスになろうと思うと、「勉強が大切だ」と母がいった。英語がペラペラにならなくてはいいのだ。私は夢をみた。スチュワーデスに、なった夢、いたみ空航の夢だった。飛行機に乗って 東京に行夢、外国人が 乗っていた。その外国人が私に、話かけてきた。私は、英語がつまってなにもいえなかった夢。

私の夢 希望

草川 秀美

私は、たくさんの夢をもっている。大きくなって、洋服屋とか、美容師かスチュワーデスカ、女医になろうと思っています。だけど、スチュワーデスになろうと思うと、「勉強が大切だ」と母がいった。英語がペラペラにならなくてはいいのだ。私は夢をみた。スチュワーデスに、なった夢、いたみ空航の夢だった。飛行機に乗って 東京に行夢、外国人が 乗っていた。その外国人が私に、話かけてきた。私は、英語がつまってなにもいえなかった夢。

ひと口さようなら

草川秀美

六年間、すごしてきた学校

この学校とも、もうすぐわかるのだ。おもえば六年間は、短かった、もうすぐ、この学校ともおわかれた。

六年間、すごしてきた学校

草川秀美

この学校とも、もうすぐわかるのだ。おもえば六年間は、短かった、もうすぐ、この学校ともおわかれた。

卒業をひかえて

酒井昌子

六年生も、あとわずかです、おしまいです。長い間
雨の日も風の日も通って来ました。この道もこの学
校もこの校庭ともお別れする日が、近づいて来まし
た。今思うとほんとうにさびしい思いがいたします
。又六年が教えてくださった先生方ともお別れせね
ばならないと思うとよけいにさびしさが、こみあげ
てきます。中学校へいっても第二のことは、わすれ
ることは、できないだろうと思います。卒業した
りっぱな人になりたいと思います。先生、長い間ほ
んとうにありがとうございました。

卒業をひかえて

(酒井昌子)

六年生も、あとわずかです、おしまいです。長い間
雨の日も風の日も通って来ました。この道もこの学
校もこの校庭ともお別れする日が、近づいて来まし
た。今思うとほんとうにさびしい思いがいたします
。又六年間教えてくださった先生方ともお別れせね
ばならないと思うとよけいにさびしさが、こみあげ
てきます。中学校へいっても第二のことは、わすれ
ることは、できないだろうと思います。卒業した
りっぱな人になりたいと思います。先生、長い間ほ
んとうにありがとうございました。

ゆめ

酒井昌子

私は、平凡な、お奥様に、なりたいと思います。

ひと口さようなら

なつかしい給食をもう一度たべたくなった。

ゆめ

酒井昌子

私は、平凡な、お奥様になりたいと思います。

一口さようなら

なつかしい給食をもう一度たべたくなった。

卒業

坂本 てるみ

この六年間をふりかえって見ると

楽しかったこと 悲しかったことが

いろいろ 思いだされる。

六年前 母に手をひかれて

この学校にやって来た。

だが今は この学校を去って行くのだ

三月櫻がふくらみかけ

花が咲きはじめるころ

私達は希望に満ちた 胸 ふくらませ

この学校を去って行くのだ

卒業

卒業

卒業

卒業

坂本

てるみ

この六年間をふりかえって見ると

楽しかったこと 悲しかったことが

いろいろ 思いだされる。

六年前 母に手をひかれて

この学校にやって来た。

だが今は この学校を去って行くのだ

三月櫻がふくらみかけ

花が咲きはじめるころ

私達は希望に満ちた 胸 ふくらませ

この学校を去って行くのだ

卒業

卒業

卒業

一口さようなら

坂本 てるみ

中学校に、進級するのはうれしい

だが六年間いっしょにくらしてきた、みんなとわ

かれるのは悲しい。

ゆめ

坂本 てるみ

私は、将来 デザイナーになりたいと思ってい

る。いろいろなことを勉強していろいろな、デザ

インを考え人々によるこぼるような、りっぱな

デザイナーになろうと思っている。いやそうなら

うと思うより、どうしても、そうなるのだ。私の

一つのゆめを、実現させよう。母もそうねがって

いる。がんばろう。

病院の天井

鯛正子

天井を見ると、
くものすがぶらさがって
いまにも落ちてきそう
私のねている
ベッドの上に
いや口の中にはいつてきそう
私は、ぞーっとして
ふとんの中に、もぐった

病院の天井

(鯛正子)

天井を見ると、
くものすがぶらさがって
いまにも落ちてきそう
私のねている
ベッドの上に
いや口の中にはいつてきそう
私は、ぞーっとして
ふとんの中に、もぐった



希望

鯛眉美

大きくなるとみんなは、どんなにかわるだろう。
考えて見るとおもしろい。私は大人になったら
婦人記者になりたい。おてんばなようだが、おも
しろい仕事だと思う。婦人記者になりたいと思う。
私にはそんな仕事かむいているのかもしれない。
でも大きくなるとそんなゆめは消えてしま
うかもしれない。それをやりとげるためにもまた
??? ためにもがんばろう。自分の力で自分のゆ
めを実現させよう。

希望

鯛眉美

大きくなるとみんなは、どんなにかわるだろう。
考えて見るとおもしろい。私は大人になったら
婦人記者になりたい。おてんばなようだが、おも
しろい仕事だと思う。婦人記者になりたいと思う。
私にはそんな仕事かむいているのかもしれない。
でも大きくなるとそんなゆめは消えてしま
うかもしれない。それをやりとげるためにもまた
??? ためにもがんばろう。自分の力で自分のゆ
めを実現させよう。

卒業

鯛眉美

大きな波。山のような波
私たちは、このなみを、おしわけて進んでいかなく
てはならない

この波にうちあげられれば、何も知らない、広い

大きな世界でさまよわなくては、ならない

大きななみを、おしわけて

どうどうと進んで行く船。

わたしたちは、この大きな船にならなくてはいいけ
ない。

これからは、第二の港へ

嵐にあつてもまけないでぐんぐんと進んで

いこう

卒業。卒業。

この間まで一年生だったのにもう卒業だ

さようなら先生。さようなら仲のよかった友だち

さようなら私たちの学校

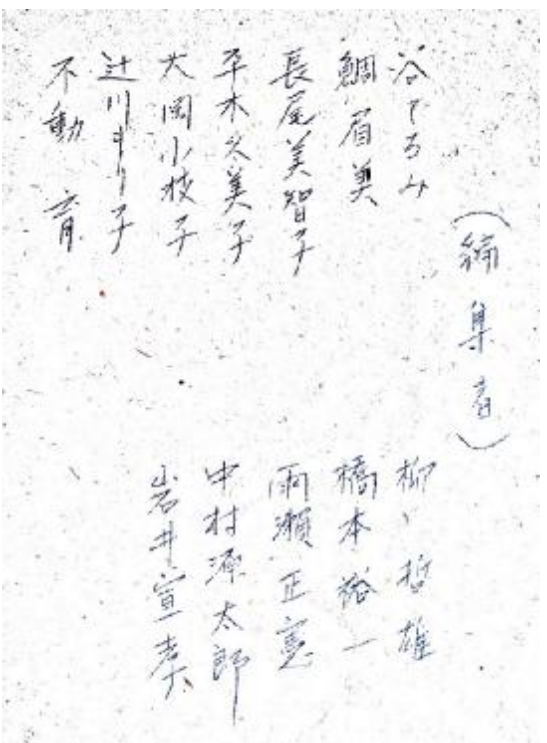
さあ船出しよう。新しい海へ。

ひと口さようなら

鯛眉美

日も風の日も楽しくこぐった校門ともお
わかれの日がきた。

勉強がたいくつになった時は、いつもはげまし
てくれた小鳥達とうとうお別れの日がきたね。
さあ第一の駅についた　これから第二の駅へ
出発だ。



台風のようなおそろしさ 立花里子

九月二十六日は、お習字の清書をする日に当たっていたので、風が強くなってもいかなければ(なら)なかった。お習字もおわった。風と雨で帰りにくい道をいっしょけんめいやむのをまっ待っているとやんできた。私はいそいで自転車をとばした。しばらくすると、また雨風がふりつづけた。わたしたはおくばをくいしばってもう少しもう少しと行っている家についた。自転車が泣いているようにギーギーと行っている。自転車(車)をそうじ、してから、母と父に、「谷さんの家から自動車がかえにきた」と行ったら、父はわらいながら「大きなちがいやな」と行ってわらった。テレビを見ていると雨風で電気が消えた。暗いのおばあちゃんがりうそくをとりに行った。父のたばこの光をもとにして、ろうそくをつけた。竹やぶの方で竹と竹が、かさなったようなザアーザアーという音がしている。きもちの悪い中で、ごはんをたべて、みんなう早くから、ねどこにはいって、あせを、かきながら、こわいこわいと、言っていると、私は、いつのまにかねむってしまった。朝おきると、空は青々として、きのうの台風がうそのようだった。

台風のようなおそろしさ 立花里子
九月二十六日は、お習字の清書をする日に当たっていたので、風が強くなってもいかなければなかつた。お習字もおわった。風と雨で帰りにくい道をいっしょけんめいやむのをまっ待っているとやんできた。私はいそいで自転車をとばした。しばらくすると、また雨風がふりつづけた。私はおくばをくいしばってもう少しもう少しと行っている家についた。自転車が泣いているようにギーギーと行っている。自転車をそうじ、してから、母と父に、「谷さんの家から自動車がかえにきた」と行ったら父は、わらいたがった。大きなちがいやな」と行ってわらった。テレビを見ていると雨風で電気が消えた。暗いのおばあちゃんがりうそくをとりに行った。父のたばこの光をもとにして、ろうそくをつけた。竹やぶの方で竹と竹が、かさなったようなザアーザアーという音がしている。きもちの悪い中で、ごはんをたべて、みんな早くから、ねどこにはいって、あせを、かきながら、こわいこわいと、言っていると、私は、いつのまにかねむってしまった。朝おきると、空は青々として、きのうの台風がうそのようだった。



六年間の思い出

谷てるみ

母に手をひかれて、第二の校門をくぐったのは、一年生にあがるときでした。ふりかえってみれば、長かった六年間、短かったようにも思える六年間、月日のたつのは、早いものです。思えば、右も左もわからなかった私達を、これまで、おしえ、ごしどうをして下さった先生方ありがとうございました。お友達のみなさんにもいろいろお世話になりました。下級生の人には、よいお手本を示さず残念です。お友達のみなさんこれからもどしどしどうして下さい。困難にまけず、にんたいづよく、つき進んでいきます。

六年間の思い出

(谷てるみ)

母に手をひかれて、第二の校門をくぐったのは、一年生にあがるときでした。ふりかえってみれば、長かった六年間、短かったようにも思える六年間、月日のたつのは、早いものです。思えば、右も左もわからなかった私達を、これまで、おしえ、ごしどうをして下さった先生方ありがとうございました。お友達のみなさんにもいろいろお世話になりました。下級生の人には、よいお手本を示さず残念です。お友達のみなさんこれからもどしどしどうして下さい。困難にまけず、にんたいづよく、つき進んでいきます！

ひと口さようなら

谷てるみ

教室から見た景色よ　こんどみる時は　かわつていよう

希望

谷てるみ

私の夢は手芸の道にはいることです。世界各国をまわって、日本の手芸を　教えることです。一番最初に行く国は　パリー　ロンドン　ニューヨークです。それからいろいろの所をまわりその内は世界の手芸の先生になりたいと思う。

一口さようなら 谷 下み
教室から見た景色よ こんどみる時は かわつ
ていよう。
希望
私の夢は卒業の道はいることです。世界各国
をまわって 日本や卒業を 教えることです。
一番最初に行く国は パリです。ロンドンも 二王
一ヨークです。それから いろいろな所をまわり
その内は世界の卒業生先生になりたうと思ふ。

ひと口さようなら 谷 てるみ
えんぴつよ 六年間ありがとう。静かにねむつ
ておくれ。
思い出多き学校よ さようなら

一口さようなら 谷 てるみ
えんぴつよ 六年間ありがとう。静かにねむつ
ておくれ。
思い出多き学校よ さようなら。

一口さようなら 辻川まり子
さくらがさけば中学生。長かった六年間、
短かった六年間よ、さようなら

左のが、六十年前に発行された六年六組の卒業文集です。



冬もだいぶあたたかくなりました。ある日、学校から帰って来て宿題をしていると、なにか上からおちてくるような気がしました。すぐに行って拾いあげてみると小鳥です。すぐに手当をしている、ときはどういう名かわかりませんでした。手当が終わってからめじろだなと思い、食べ物にぬかと水を葉をすりばちですり、小鳥のかごの中に入れてあげ、めじろの大こう物のまさ木の実を入れてあげました。つぎの日になってもまだなおりません。六日たって、だいぶなおってきました。八日し十日たって小鳥かごをあけると、かごから出ようとしないので、まさ木の枝にのせてあげると、チツチツとなき実をたべては鳴き実を食べては鳴いていました。しばらくして二羽の小鳥が、飛んで来ました。この小鳥もめじろだなと思っ

ていると三羽いっしょにい飛びたち東の方へ仲よく飛んでいきました。見送りながら 元気になつてよかつたなと思いました。

終



小鳥

辻川 まり子

冬もだいぶあたたかくなりました。ある日、学校から帰って来て宿題をしていると、なにか上からおちてくるような気がしました。すぐに行って拾いあげてみると小鳥です。すぐに手当をしている、ときはどういう名かわかりませんでした。手当が終わってからめじろだなと思い、食べ物にぬかと水を葉をすりばちですり、小鳥のかごの中に入れてあげ、めじろの大こう物のまさ木の実を入れてあげました。つぎの日になってもまだなおりません。六日たって、だいぶなおってきました。八日し十日

たって小鳥かごをあけると、かごから出ようとしないので、まさ木の枝にのせてあげると、チツチツとなき実をたべては鳴き実を食べては鳴いていました。しばらくして二羽の小鳥が、飛んで来ました。この小鳥もめじろだなと思っ

ていると三羽いっしょに飛びたち東の方へ仲よく飛んでいきました。見送りながら 元気になつてよかつたなと思いました。

終

希望

津山喜久子

大きくなって洋服のデザイナーになりたい。

希望

津山喜久子

大きくなって洋服のデザイナーになりたい。

卒業

津山喜久子

春もそこまで来ている 小学校にいるのも、一月もないくらいだし、みんな友もはなればなれになってしまう。中学校生活もいいけれど、やっぱり小学校が一番いいと心に強くかんじるのだった。その一番印象的になるのは、六年生に行つて来た修学旅行です。もう一度みんなとたのしく行きたいなあと思っています。

卒業

津山 喜久子

春も、もうそこまで来ている 小学校にいるのも、一月もないくらいだし、みんな友もはなればなれになってしまう。中学校生活もいいけれど、やっぱり小学校が一番いいと心に強くかんじるのだった。その一番印象的になるのは、六年生に行つて来た修学旅行です。もう一度みんなとたのしく行きたいなあと思います。

ひと口さようなら

津山喜久子

小学校のお友だちとおおわかれ、先生方ともおわかれだ。思えば思うほどかなしくなる、もう一度小学校で勉強したい

???

???

一口さようなら

津山 喜久子

小学校のお友だちとおおわかれ、先生方ともおわかれだ。思えば思うほどかなしくなる、もう一度小学校で勉強したい

ゆめ (希望)

中島ひろみ

私のゆめは美容師になること、それには色々むずかしいことや、いやなこともあるだろうが 私はりっぱな美容師になるつもりだ。父母もさんせいしてくれる。私の希望はかなえられそうだし私はどんなに苦しくてもやり通す。これが私の親孝行の一つなのだと思う。

一口さようなら

中島ひろみ

先生よ、友よ、なつかしい校舎よ さようなら

一口さようなら

中島婦美子

たのしかった六年間

いよいよ終わった

友よさようなら

卒業

長尾美智子

母に手を、ひかれて第二小学校の門を、くぐったのは、一年生にあがる時でした。つねひごろ行きたい、いきたいと、ゆめにまで見た学校。でも、もう一カ月すると卒業。六年間、いっしょに勉強してきた友達ともわかれなければ、なりません。やさしかった先生。よい話し相手になってくれた友達。かなしかったことも、今になるとよい思い出になります。なにもしないときから、先生におしえていただいたのは一生わすれません。これからは、何ごとにもくじけず、しっかり勉強していこうと思います。

卒業

(長尾美智子)

母に手を、ひかれて第二小学校の門を、くぐったのは、一年生にあがる時でした。つねひごろ行きたい、いきたいと、ゆめにまで見た学校。でも、もう一カ月すると卒業。六年間、いっしょに勉強してきた友達ともわかれなければ、なりません。やさしかった先生。よい話し相手になってくれた友達。かなしかったことも、今になるとよい思い出になります。なにもしないときから、先生におしえていただいたのは一生わすれません。これからは、何ごとにもくじけず、しっかり勉強していこうと思います。



一口さようなら

長尾美智子

六年間勉強してきた学校、でも、もうおわかれです。こんどあう日をたのしみに卒業しよう。

電話

西田妙子

大阪のおばちゃんのお所へ、はじめて、電話をかけた。電話局の、お姉ちゃんの声がよく聞こえた。私は「モシモシ」と言うと「ハイハイ」と言った。電話は、便利だなあ。テレビみないに顔がみえるといいのになあ。

一口さようなら

西田妙子

楽しい 遠足、楽しい 修学旅行も、すんだ。
さ こんどは卒業だ。

一口さようなら
楽しい、遠足、楽しい、修学旅行も、すんだ。
さ こんどは卒業だ。
西田 妙子

ゆめ

橋本陽子

私はおおきくなったら なになにになりたいと思う
希望はないが、少しでも世の人々にやくにたつ人
になりたいと思います。

一口さようなら

橋本陽子

さらば「うしやよ

校庭よ。

ゆめ
私は大きくなったら なになにになりたいと思う
希望はないが、少しでも世の人々にやくにたつ人
になりたいと思います
一口さようなら
さらば「うしやよ 校庭よ、
橋本 陽子

卒業

樋口和子

もうすぐ卒業だ 六年間勉強した教室

楽しく遊んだ運動場

今まで教えていただいた先生方ともお別れだ

病気で休んだこともある

元気で運動場をかけたたり おこったこともある

こんどは新しい学校へ行くのだ

いろいろお世話になったお友達

考えれば短かった六年間

もうしばらくで卒業だ

卒業

樋口 和子

もうすぐ卒業だ 六年間勉強した教室

楽しく遊んだ運動場

今日で教えていただいた先生方ともお別れだ

病気で休んだこともある

元気で運動場をかけたたり おこったこともある

こんどは新しい学校へ行くのだ

いろいろお世話になったお友達

考えれば短かった六年間

もうしばらくで卒業だ

体育する
お友達



めぐり来る春

平木久美子

やわらかい陽の光が野山に満ち
小鳥がさえずる春

桜が咲く学校へ

赤いランドセルをせに

胸もどきどき通った一年のころ

毎日学校へ行く事が

うれしくて、うれしくて

たまらなかったのに……

このころはなんだか悲しい様な気持

六年間通いなれた、なつかしい学校の先生方と

お別れの日が、一日一日とせまってくる

名残りおいしい毎日

のこり少ない日を友と先生方と

楽しく過そう

卒業を待ちながら

春には元気な中学生に

又めぐり来る

又の春には希望にもえて

私は、大人への階段を登って行こう

めぐり来る春 (平木久美子)

やわらかい陽の光が野山に満ち

小鳥がさえずる春

桜が咲く学校へ

赤いランドセルをせに

胸もどきどき通った一年のころ

毎日学校へ行く事が

うれしくて、うれしくて

たまらなかったのに……

このころはなんだか悲しい様な気持

六年間通いなれた、なつかしい学校や先生方と

お別れの日が、一日一日とせまってくる

名残りおいしい毎日

のこり少ない日を友と先生方と

楽しく過そう

卒業を待ちながら

春には元気な中学生に

又めぐり来る

又の春には希望にもえて

私は、大人への階段を登って行こう



一口さようなら

平木久美子

六年間、やさしく教え導いてくださった先生方とも、もうおわかれです。いつまでも先生のお教を守り、りっぱな人になりたいと思います。ありがとうございます。さようなら先生。

卒業

平山昌子

ああもうすぐ卒業だ。あといく日ねたら卒業だ。思ってみると、この第二小学校ともおわかれた。新しい鉄棒や、時計などがきふされるもっともつと長く小学校にいたいな。

卒業

平山 昌子

ああもうすぐ卒業だ。あといく日ねたら卒業だ。思ってみると、この第二小学校ともおわかれた。新しい鉄棒や、時計などがきふされるもっともつと長く小学校にいたいな。



ひと口さようなら

不動育

別れても思い出は胸に

希望

不動育

私は六年生になつてふと希望のことを思い出した。それは「びようし」だ。でもそれはとても夜おそくまで店を開いていなければならぬ。でもやりとおす。どんなに苦心してもやりとげようと思う。

一口さようなら

不動育

希望

私は六年生になつてふと希望のことを思い出した。それは「びようし」だ。でもそれはとても夜おそくまで店を開いていなければならぬ。でもやりとおす。どんなに苦心してもやりとげようと思う。